

第4学年国語科学習指導案

日 時 平成24年9月26日(水) 4校時
 場 所 福岡小学校 4年2組教室
 男子14名 女子18名 計32名
 指 導 者 千葉 雅子(二戸市立福岡小学校)
 共同研究者 伊藤 奈美(一戸町立一戸小学校)

- 1 単元名 しょうかいパンフレットでオリジナルライブラリーを開こう！
 中心教材 「ごんぎつね」新美南吉 (光村図書4下)
 補助教材 「てぶくろをかいに」「金色の足あと」「帰ってきたナチ」他

2 単元について

(1) 児童について

学級の児童はこれまでに、第3・4学年において以下の学習を通して読むことの力を身に付けてきている。

教材名	身に付けてきた力	言語活動
ちいちゃんのかげおくり	人物の行動、情景、会話に着目して読む。 (ウ、エ、オ)	感想をまとめる。
モチモチの木	行動や会話に着目して、人物の気持ちや性格をとらえて読む。(ウ、カ)	紹介文を書く。
白いぼうし	行動や会話から人物の気持ちや性格を想像して読むとともに、色やにおいに関わる言葉から様子を想像して読む。(ア、ウ)	工夫して音読する。
一つの花	行動や会話に着目して、人物の気持ちや場面の様子を想像して読む。(ウ、オ)	考えたことを話し合う。

これらの学習を通して、人物像をとらえることはできるようになってきているが、気持ちの変化についてはまだ重点的に取り上げて学習していない。「白いぼうし」の学習では、色やにおいなどの情景描写からどんな様子かを想像する活動を経験している。

「本を紹介する活動」は、1年生「ずうっと、ずうっと大すきだよ」2年生「スーホーの白い馬」から系統的につながってきている活動である。しかし、教科書の改訂に伴い、本児童は3学年「モチモチの木」においては紹介するという目的で本を読み進める活動を行っているものの、あらすじを的確にまとめるような活動は十分に経験していない。

読書活動については、目標冊数を設定したり学級に本を置いたりするなど、係活動を中心に、児童が読書量を増やす取り組みを行っている。しかし読書への興味関心は個人差が大きく、なかなか本を手にしなない児童もあり、全体としては読書に親しんでいるとはいえない。

(2) 単元での指導事項と言語活動について

本単元では主たる能力である学習指導要領「読むこと」の「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」を受け、言語活動例の「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を設定している。

紹介するという言語活動は、紹介するのにふさわしい理由を十分に説明することが不可欠になってくる。選んだ本のあらすじ、構成、場面、人物像、気持ちの変化、情景などのそれぞれの観点における「魅力」を、紹介する相手に分かりやすく伝える必要がある。ゆえに、紹介するという言語活動は、観点を絞った読みを、必要感をもって展開できるという点において大きな意義がある。第4学年で培うべき能力である、「登場人物の気持ちの変化や情景を読む力」を中軸とした主体的な学習活動を展開することが可能となる。

また、シリーズやジャンルといった視点で関連付けて取り上げることもできるため、作品を比べて読んだり重ねて読んだりするなど、複数の作品に主体的に触れさせることができるのも紹介活動の大きな利点である。

なお、本を紹介する言語活動は、第5・6学年において「本を読んで推薦の文章を書く」言語活動へと発展していく。

(3) 教材について

本教材は、いたずら好きのごんと兵十が登場する物語である。何も知らないごんがいたずらをし、兵十はごんのことを憎く思う。ごんは償いを続けるが兵十にその思いは届かず、最後には兵十に撃たれてしまう。このように心を通じ合わせることでできない悲しさを描いている物語である。児童はこの意外な展開に驚き、物語の世界に引き込まれるであろう。本教材は独話や心内語などを用いて登場人物の心情が描かれており、児童はごんの視点に立ったり兵十の視点に立ったりしながら、叙述を基に登場人物の心情の変化を読み取っていくことができると考える。さらに、印象的な景色や色などの美しい情景描写が随所に見られるため、豊かに想像しながら読み進めることができる教材であると考えられる。

(4) 単元構想と指導について

単元の構想にあたって、「しょうかいパンフレットでオリジナルライブラリーを開こう」と題して、自分の選んだ本について紹介パンフレットを使って紹介し合う活動を単元のゴールとして位置付けたい。児童のこれまでの言語活動経験や4年生という発達段階を勘案し、パンフレットの構成要素として「あらすじ」「心に残る景色、色、音」「気持ちの変化」を取り上げる。場面の展開を押さえながら、行動や会話を基にして登場人物の気持ちの変化や情景をじっくり読ませしていきたい。また、登場人物の気持ちの変化や情景を読む力が他の作品にも転移するよう、「ごんぎつね」だけでなく、動物が登場する物語へ広げ、二度のパンフレットづくりを通してより一層の習得を図っていきたい。

第一次では、動物が出てくる「てぶくろをかいに」を取り上げ、教師からの紹介を起点として、動物が出てくる本の世界に誘い込みたい。そして、「紹介パンフレットの目的と様式」「作るために必要な読む力」「読み方」「作成過程」などの学習計画を児童と一緒に立てていきたい。同時にこの時点から、動物が出てくる本の並行読書を始めさせていく。並行読書に際しては一定の観点で読ませ、ワークシートにメモさせていきたい。

第二次「ごんぎつね」の学習では、あらすじを一文にまとめさせたり、ごんと兵十の行動や会話（心内語）から気持ちの変化をとらえさせたりしたい。また、情景描写に着目して場面の様子や気持ちを豊かに想像させたい。そして、パンフレットの様式で「ごんぎつね」のおもしろさを紹介するという目的で児童の読みを交流させる学習を展開していく。

第三次では、これまで学習の観点に沿って並行読書してきた動物が出てくる本の中から一冊選び、パンフレットにまとめる全過程を自力で行わせていきたい。さらに、自分たちのオリジナルライブラリーと称して、出来上がったパンフレットを本のそばに置き、パンフレットから本を選び読み合う活動をさせていく。

以上のように「紹介するという言語活動」を手段として、登場人物の行動や会話、心情表現などから気持ちの変化や情景を読む力を、どの児童にも着実に身に付けさせていきたい。

3 学習指導目標

- ① 動物が登場する様々な作品に興味をもって読み、進んで作品を重ねて読もうとする。
- ② 紹介したい物語（動物が登場する物語）を選び、あらすじをまとめたり、登場人物の気持ちの変化や情景などに着目したりして、紹介パンフレットに書きまとめることができる。
- ③ 紹介するために必要な評価・感想語彙を増やし、また、これらの語句には性質や役割の上で類別があることに気付くことができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解
・動物が登場する様々な作品に興味をもって読み、進んで並行読書をしている。	・登場人物の行動（会話）に着目し、気持ちの変化や色彩を中心とした情景をとらえている。（ウ） ・紹介するために、あらすじをまとめたり、考えの根拠となる叙述を引用したりしている。（エ） ・本を紹介する目的で、観点に沿って複数の本を選んで読んでいく。（カ）	・紹介するために使う評価・感想語彙を増やし、その性質や効果について理解している。（イ【オ】）

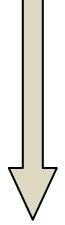
5 学習計画（「読むこと」14時間）

次	時	学習活動	評価規準
一	1	「てぶくろをかいに」のパンフレットを見た後、本の読み聞かせを聞き、動物が登場する本について知る。	【関】動物が登場する本に興味をもっている。
	2	パンフレットを作って動物が出てくる本を紹介し合うというめあてをもち、学習計画を立てる。 「しょうかいパンフレットでオリジナルライブラリーを開こう！」	【読】動物が出てくる本を紹介するという目的をもって、活動の見通しや具体的な手だてを考えている。(読カ)
二	3	「ごんぎつね」の登場人物や物語の構成を概観し、あらすじをとらえ、パンフレットにまとめる。	【読】「ごんぎつね」の全体を概観し、一文に要約してあらすじをまとめている。(読エ)
	4		【読】ごんの変化の理由を自分の行為の反省や兵十への同情を根拠にしてまとめている。(読ウ)
	5 6 (本時6)	いたづらを後悔し償いを続ける場面を読み、中心人物ごんの気持ちの変化をとらえてパンフレットにまとめる。	【読】場面の様子やごんと兵十の気持ちの動きと結び付けて、情景描写(景色や色)を紹介している。(読ウ)
	7	「ごんぎつね」に描かれている景色や色などの情景描写を読み取りパンフレットにまとめる。	【読】「ごんぎつね」について読み手を意識し、観点に沿ってパンフレットにまとめている。(読ウ) 【言】本を紹介するために適切な評価・感想語彙を用いている。(伝国イ(オ))
	8	「ごんぎつね」のパンフレットを作る。 ・あらすじ ・心に残る景色、色 ・気持ちの変化 ・キャッチコピー ・おすすめする言葉	
三	9	動物が出てくる本のパンフレットを作るために流れを確認し、自分が選んだ本を再読しながら観点に沿ってワークシートにメモをする。	【読】紹介するという目的で、動物が出てくる本の中から選んでいる。(読カ)
	10		【読】叙述を基に気持ちの変化などをとらえメモにまとめている。(読ウ)
	11		【読】動物が出てくる本について読み手を意識し、観点に沿ってパンフレットにまとめている。(読ウ)
	12	自分が選んだ本のパンフレットを作る。 ・あらすじ ・心に残る景色、色 ・気持ちの変化 ・キャッチコピー ・おすすめする言葉	【言】本を紹介するために適切な評価・感想語彙を用いている。(伝国イ(オ))
	13		
	14	友達のパンフレットを読み交流し、自分の学習活動を振り返る。	【関】登場人物の気持ちの変化や情景を読むという方法を振り返っている。

並行読書

- 「てぶくろを買いに」
- 「金色の足あと」
- 「母グマ子グマ」
- 「月の輪ぐま」
- 「片耳の大シカ」
- 「チロヌップのきつね」
- 「椋鳩十のクマ物語」
- 「雪わたり」
- 「カイロ団長」
- 「なめとこやまの熊」
- 「黒ねこのおきやくさま」
- 「帰ってきたナチ」
- 「きつねのでんわボックス」
- 「ミナクローと公平じいさん」
- 「出かせぎカラス」
- 「ゆきおと木まもりおおかみ」

- <並行読書の観点>
- ① あらすじ
 - ② 心に残る色、景色
 - ③ 気持ちの変化



6 本時の指導（6／14）

(1) 目標

ごんの行動や心内語に着目し、ごんの気持ちの変化をとらえることができる。（読ウ）

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点（◇評価）
導入 5分	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ごんの変化をしようかいしよう。</div> 2 前時の学習を振り返る。 ・どこで変わったのか。 ・どう変わったのか。	・パンフレットで紹介するためにごんの変化を読んでいることを確かめる。 ・前時に確かめたごんの変化について想起させ、ごんがどうして変わったのか考えるという本時の活動の見通しをもたせる。
展開 30分	3 ごんの気持ちの変化の理由について話し合う。 (1) 前時の一人学びをもとに「反省の気持ち」と「同情の気持ち」のどちらが強い話し合う。（ペア） (2) ごんの「反省」と「同情」の気持ち両面について読み深め合う。（全体）	・理由の根拠となる叙述を挙げて発表させる。 ・2人とも同じ考えの場合はもう一方について検討させる。 ・児童が考えた理由を黒板に整理していく。 ・「おれと同じひとりぼっちの兵十か」という心内語について話し合うことによって、反省ばかりでないごんの変化を考えた理由を黒板に整理していく。 ・「おれと同じひとりぼっちの兵十か」という心内語について話し合うことによって、反省ばかりでないごんの変化を考えた理由を黒板に整理していく。 ・反省の気持ちと同情の気持ちとどちらが強いのか考えさせることでごんの中にある2つの気持ちを読み深めさせたい。 ◇ごんの変化の理由について、自分の行為の反省と兵十への同情の両面から読み深めている。
終末 10分	4 学習のまとめをする。 (1) どうして変わったのかについてパンフレットにまとめる。 (2) 並行読書している作品を再読させる。 5 次時の学習内容を知る。	・話し合いを通して深めたごんの変化の理由を、パンフレットに書きまとめさせる。 ◇ごんの変化の理由を自分の行為の反省や兵十への同情を根拠にしてまとめている。 ・パンフレットにまとめ終わった児童には並行読書している本について、登場人物の変化を考えるように指示する。 ・最後に、登場人物の変化を読むためにはどこで変わったのか、どう変わったのか、どうして変わったのかを場面を関わらせて考えるとよいことを確かめ、これからの学習に生かすことができるようにする。

(3) 本時の評価規準（発言、パンフレット）

	B おおむね満足	Bに至らせるための手立て
読むこと	ごんの変化の理由を自分の行為の反省や兵十への同情を根拠にしてまとめている。	ごんの変化の理由について、板書を示しながら書き写させる。

(4) 板書計画

